

平成29年度 NTTデータシステム学生研究奨励賞(Text Mining Studio)応募用

教職員養成の高度化に対する管理職層の意識調査 —自由記述に関する分析と考察—

静岡大学教職大学院
教育実践高度化専攻1年
小林佐知子

研究の背景

・「新たな知識や技術の活用により社会の進歩や変化のスピードが速まる中、教員の資質能力向上は我が国の最重要課題であり、世界の潮流でもある。」

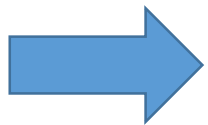
・「近年の教員の大量退職、大量採用の影響等により、教員の経験年数の均衡が顕著に崩れ始め、かつてのように先輩教員から若手教員への知識・技能の伝承をうまくはかることのできない状況があり、継続的な研修を充実させていくための環境整備を図るなど、早急な対策が必要である。」

(「これからの学校教育を担う教員の資質能力向上について(答申)」平成27年12月21日中央教育審議会)

研究の背景(続き)

・「教員が授業や授業準備等に集中し、教員が健康でいきいきとやりがいをもって勤務でき、教育の質を高められる環境を構築する」ことが求められる。

(「学校における働き方改革に係る緊急提言」平成29年8月29日
中央教育審議会初等中等教育分科会 学校における働き方改革
特別部会)



管理職層教員のマネジメント力向上が必要

調査の目的

・養成・研修統合型の教職支援システム構築に関する基礎調査の記述内容の分析により、管理職層の教員養成の高度化に対する意識を探る。

検証から期待できること

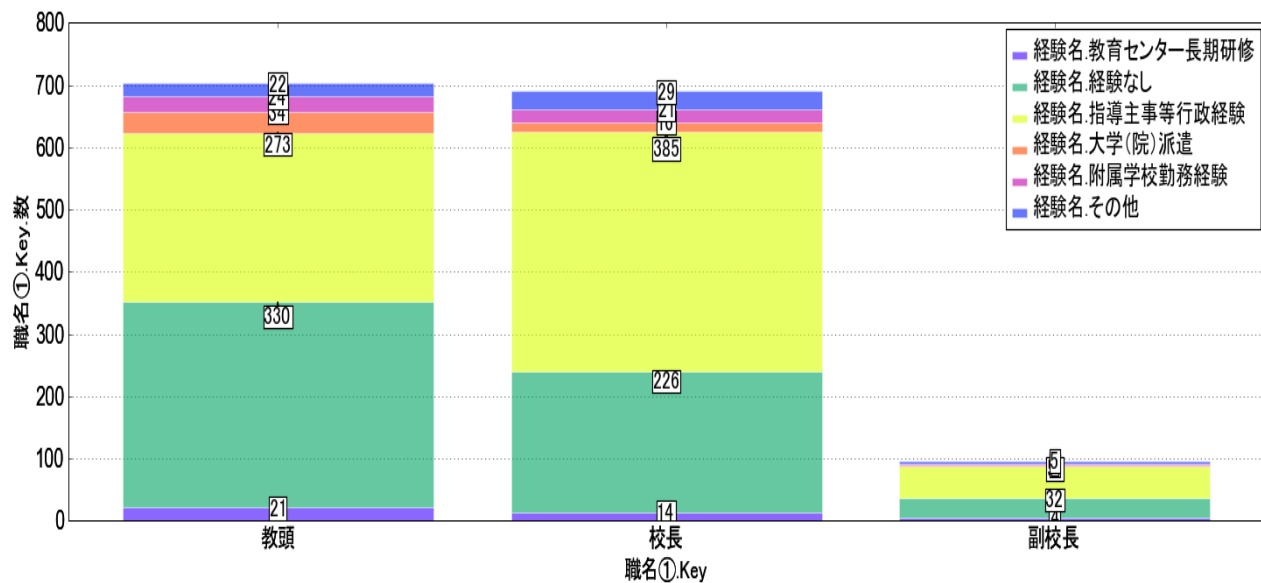
・教員養成の高度化と教職生活全体を通じた学びの継続的支援システムについて、その在り方と内容、必要な条件整備を明らかにすることで、管理職層の教員養成高度化に必要な研修を焦点化し、マネジメント力向上のため基礎資料とすることができる。

調査の対象

- ・静岡県内全小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校
(896校中738校回答。回答率82.4%。)
- ・各学校の校長・副校長・教頭
(回答者数1491人。有効回答率100%)
- ・平成24年1月下旬から平成24年2月上旬にかけて実施。

回答者の属性

職名 \ 経験	教育センター 長期研修	指導主事 行政経験	大学院派遣	附属学校 勤務経験	経験なし	その他	合計
校長	14	385	16	21	226	29	691
副校長	4	51	3	1	32	5	96
教頭	21	273	34	24	330	22	704



自由記述項目内容

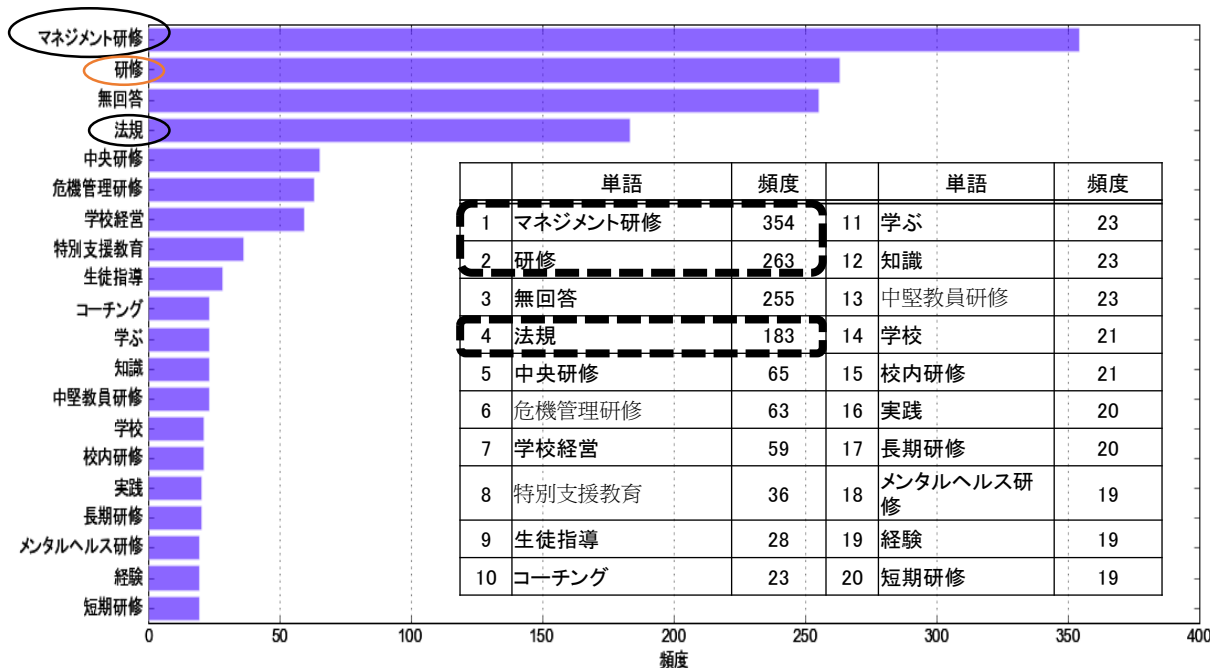
- ① 現在の職に就くために、役に立った研修は何か。
- ② このような研修があれば役に立つという研修は何か。
- ③ 学校と外部機関(教育センター、大学・大学院等)が連携した教員養成・研修システムの必要性や期待される効果についての意見。
- ④ 養成・研修統合型の教職支援システムの構築や教員養成高度化(修士レベル化)についての意見と感想。
- ⑤ 愛知教育大学大学院・静岡大学大学院の共同大学院に教育学研究科博士課程(後期3年)についての意見。

分析方法

- ①、②については単語頻度解析と注目語ネットワーク図を用いて、どのような研修が役立つのかを分析する。
- ③については注目語ネットワーク図を用いて、「必要性」や「効果」について分析する。
- ④については特徴表現を属性で見ることにより、意見と感想を分析するとともに属性ごとの違いを明らかにする。
- ⑤については係り受け頻度解析、ことばネットワーク図を用いて、共同大学院教育学研究科博士課程（後期3年）に求められていることを分析する。

①現在の職に就くために、役に立った研修は何か。

①ー I 単語頻度解析(延べ単語数4336語、単語種別数1435語、上位20位)

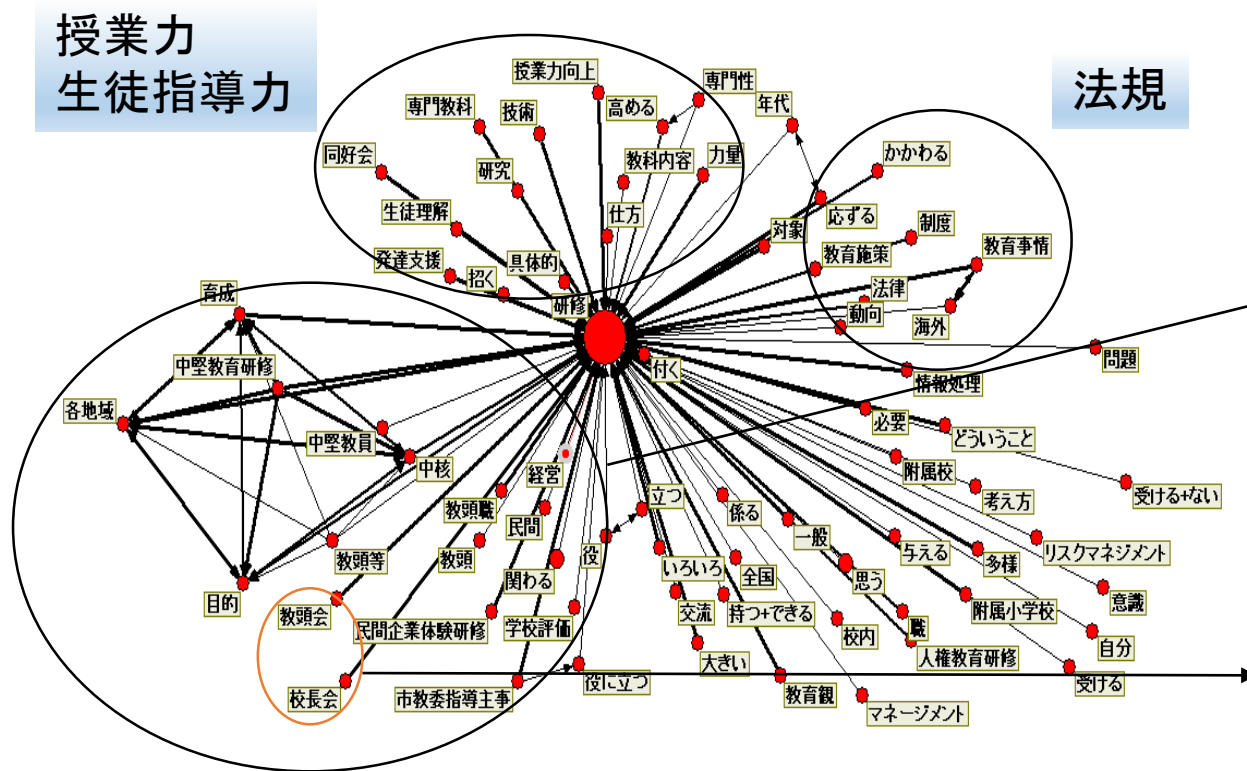


- 役に立った研修として「マネジメント研修」(頻度354回)が挙げられている。
- 次に「法規」(頻度183回)となっていることがわかる。

「研修」(263語)を注目語にし、分析する。

①ーⅡ 注目語「研修」ネットワーク図

(出現回数2回以上、
最大で100ルールの共起関係を図示)

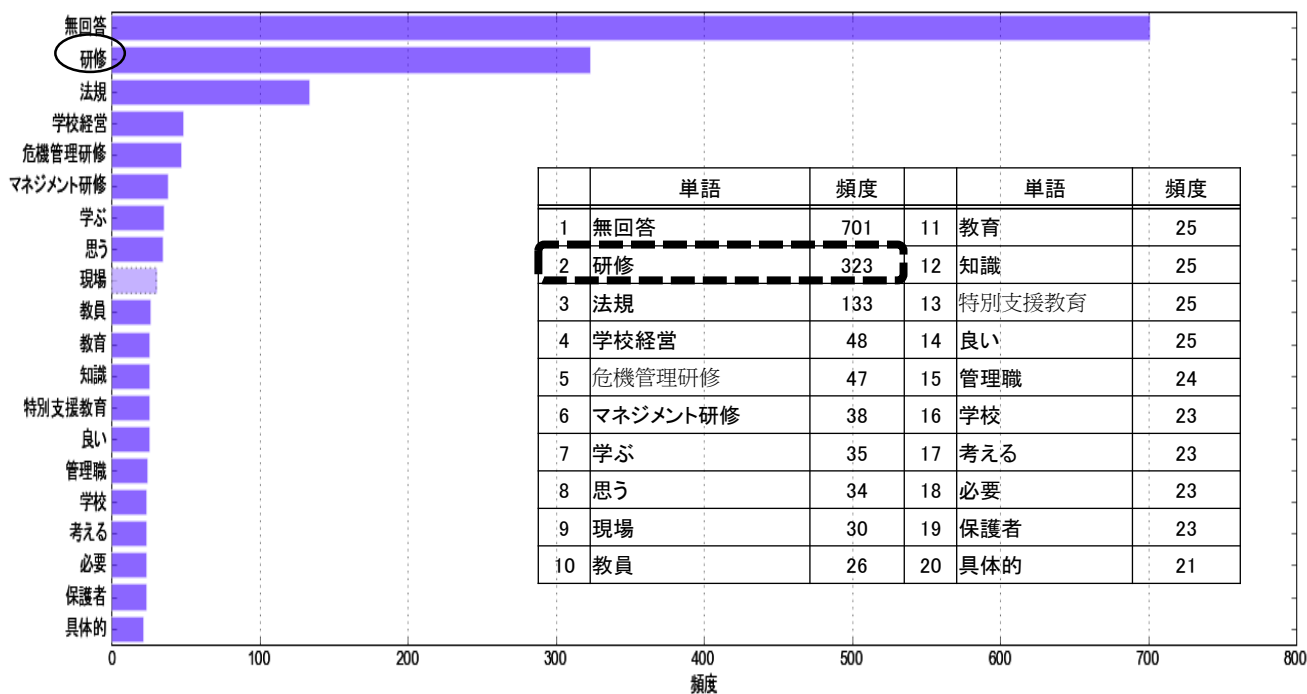


- 各地域の中核となる管理職の育成を目的とした研修が役に立ったと考えていることがわかる。
- 校長会、教頭会等組織を活用した研修における情報交換も力量形成に重要と捉えていることがわかる。

管理職や指導主事としての経験
中堅教育研修

②このような研修があれば役に立つという研修は何か。

②－I 単語頻度解析(延べ単語数4873語、単語種別数1705語、上位20位)

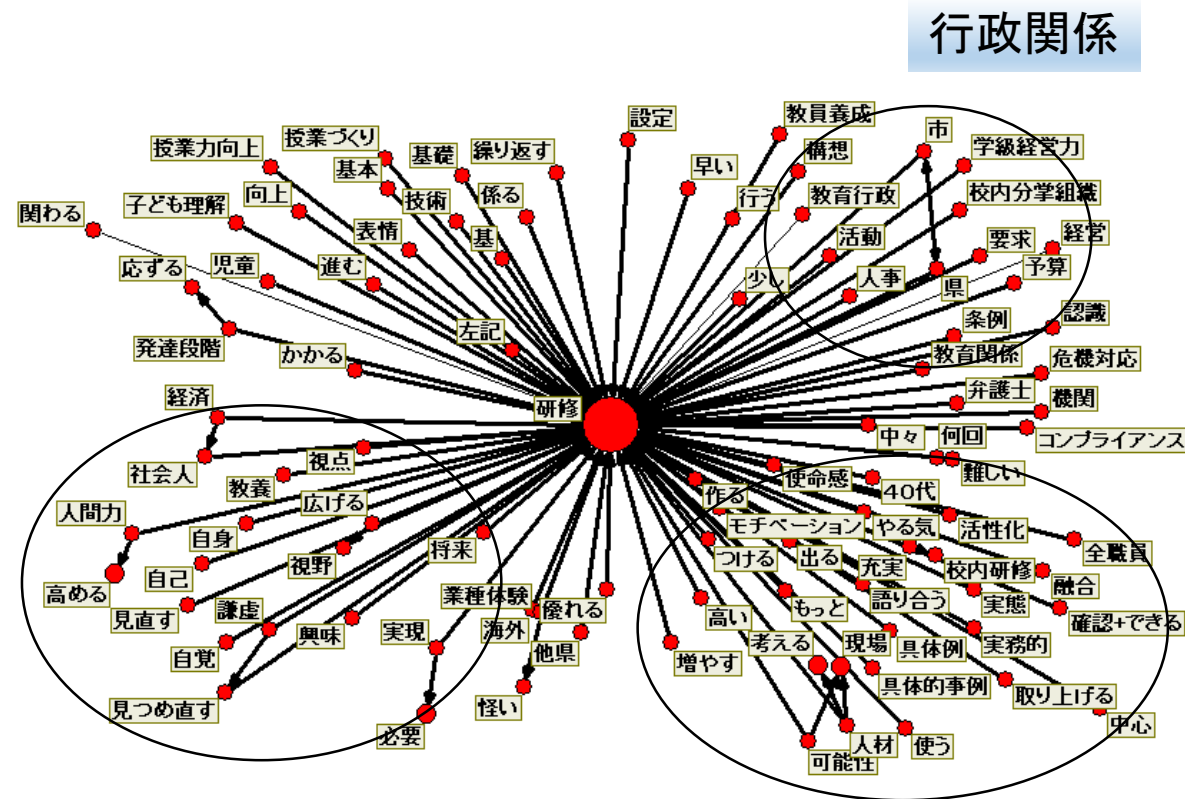


- 無回答(頻度701回)が目立つ中で、あれば役に立つ研修として「研修」(頻度323回)があげられている。

「研修」を注目語にし、分析する。

②一Ⅱ 注目語「研修」ネットワーク図

(出現回数2回以上、
最大で100ルールの共起関係を図示)



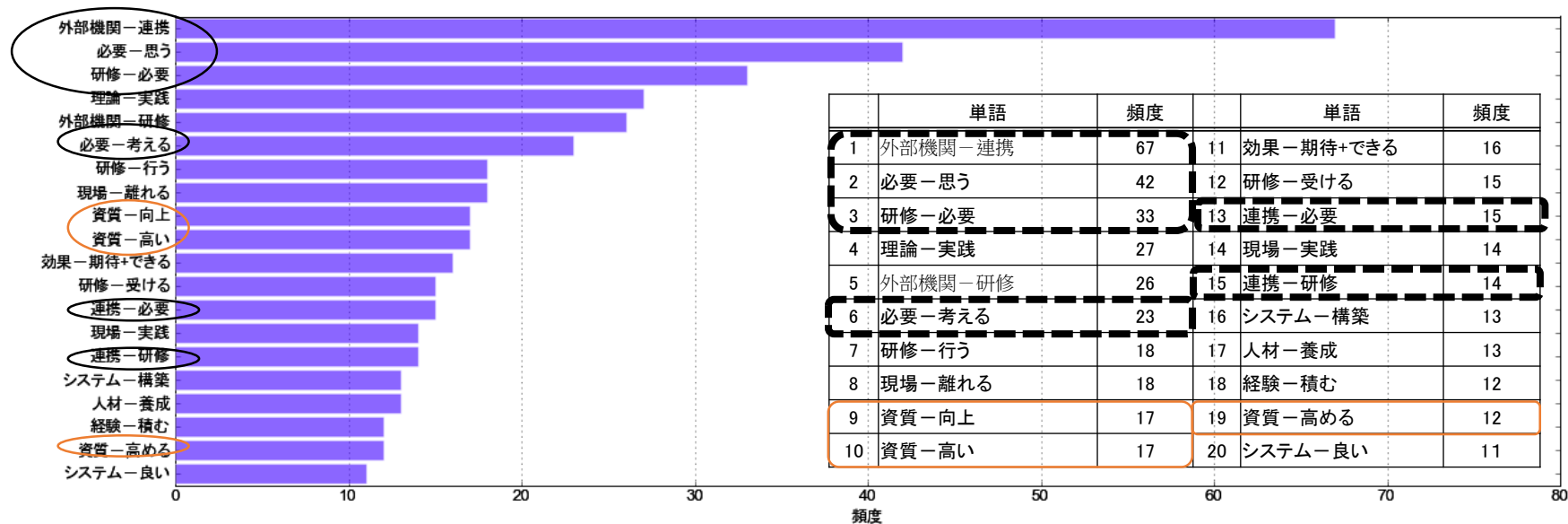
自己研鑽に関すること

具体的事例

- 教育行政に関することや各学校の実情に合った具体的な事例を取り上げた「研修」があれば役に立つと考えていることがわかる。
- 管理職になるためには幅広い視野が必要であると考えることが自己研鑽に関する言葉が多くみられたことにより明らかになった。

③学校と外部機関（教育センター、大学・大学院等）が連携した教員養成・研修システムの必要性や期待される効果についての意見について

③－Ⅰ 係り受け頻度解析（延べ単語数17234語、単語種別数3502語、上位20位）

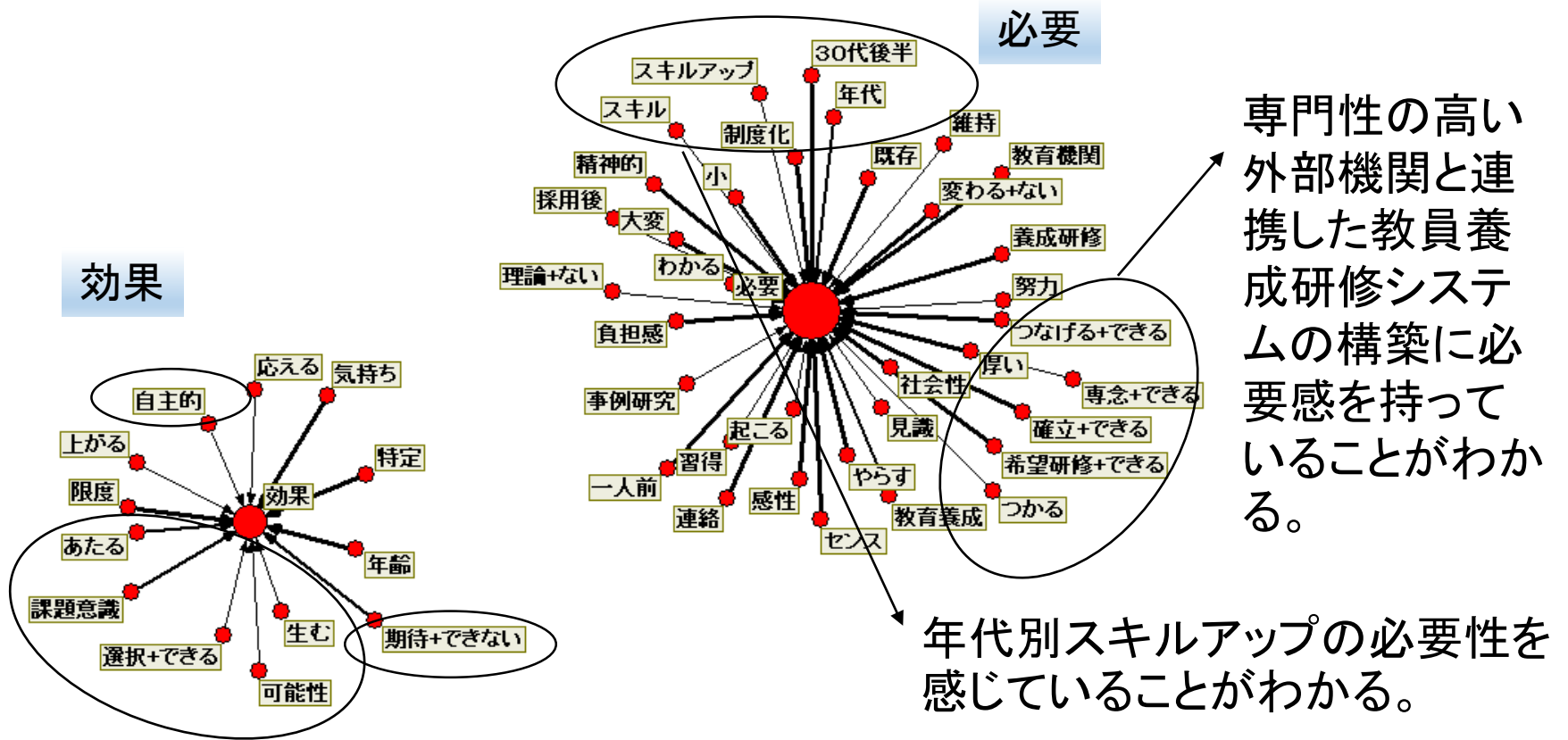


具体的な記述より

- 「学校にある実践を体系的に捉え直していくという意味では外部機関との連携には意味がある。」
- 理論と実践が融合することによって学問の面からも教員養成の面からもその質が向上する。
- 一度教職経験を積んだ上で外部機関と連携した研修を行うと効果がさらに上がる。

③－Ⅱ 注目語「必要」「効果」ネットワーク図

(出現回数2回以上、
最大で100ルールの共起関係を図示)



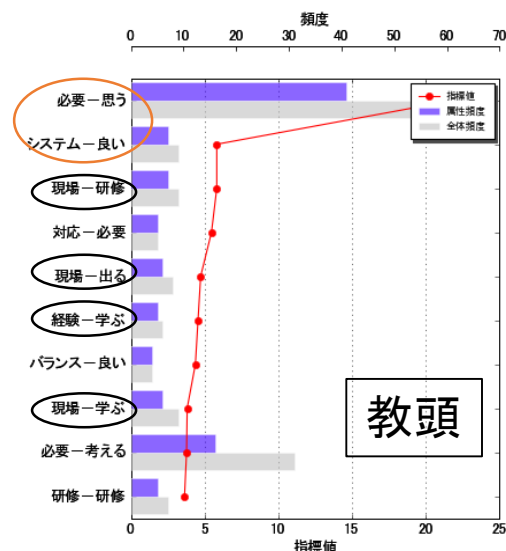
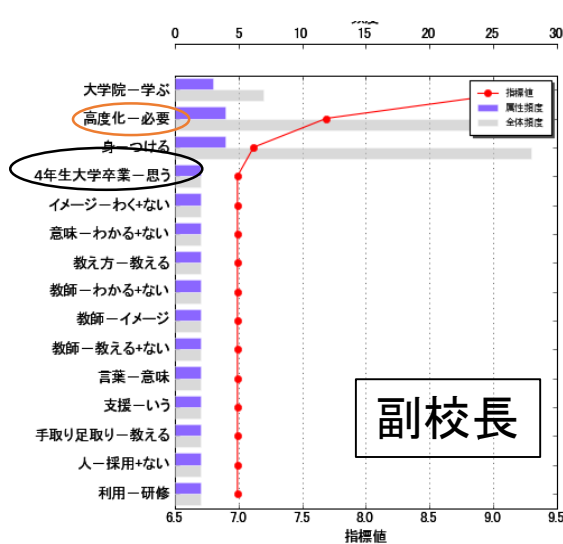
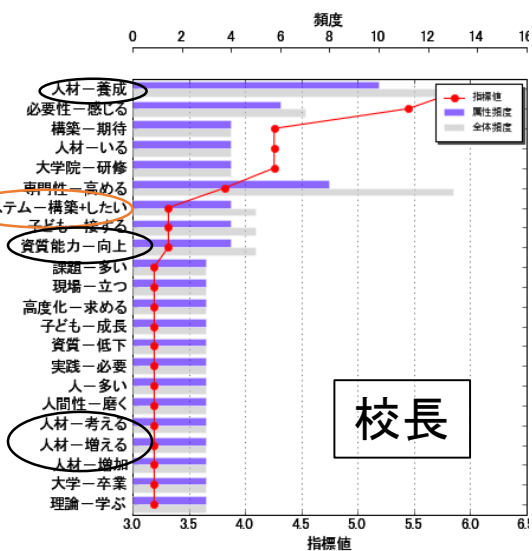
専門性の高い外部機関と連携した教員養成研修システムの構築に必要感を持っていることがわかる。

年代別スキルアップの必要性を感じていることがわかる。

「知識伝達型の研修では効果は期待できない」という意見がある反面、自主性や課題意識のある研修は効果があると考えていることがわかる。

④養成・研修統合型の教職支援システムの構築や教員養成高度化(修士レベル化)についての意見と感想。

特徴表現分析(属性)



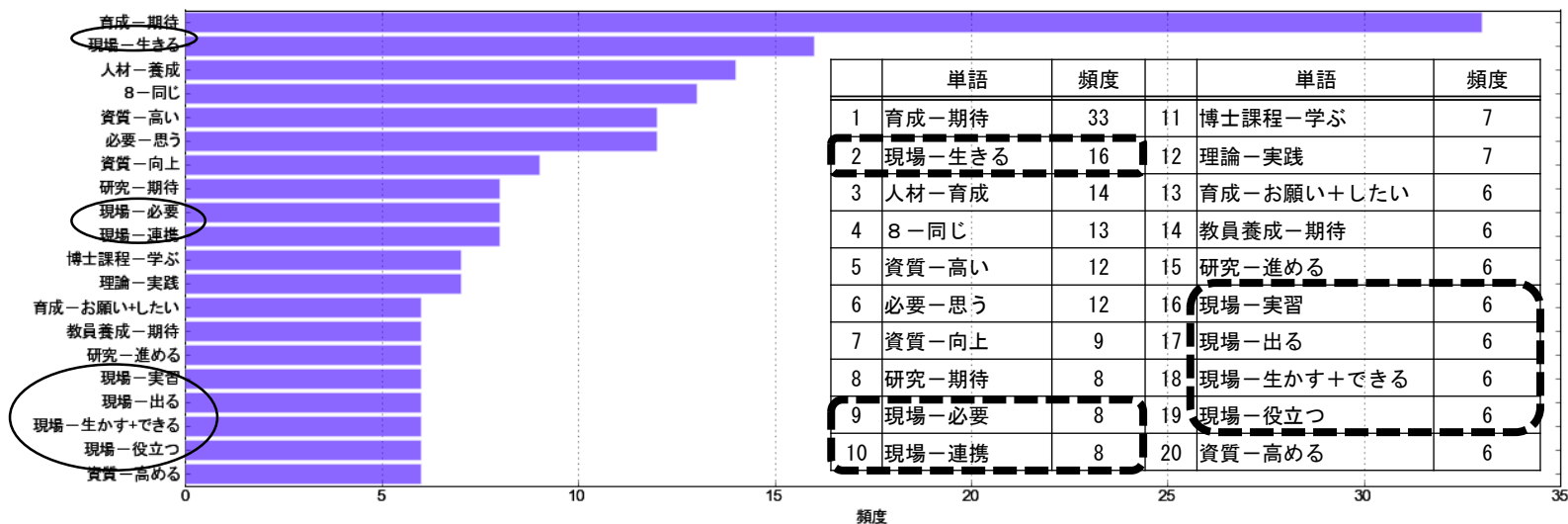
資質能力の向上を目的とした教員の育成、養成という視点がある。システム構築に期待を寄せていることがわかる。

高度化が必要と感じている一方で、4年制大学卒業で十分との認識もあることがわかる。

教職支援システムは良いという意見もあるが、現場での経験が教員養成に有効であると考えていることがわかる。

⑤愛知教育大学大学院・静岡大学大学院の共同大学院に教育学研究科博士課程(後期3年)についての意見。

⑤-I 係り受け頻度解析(延べ単語数10432語、単語種別数2469語、上位20位)



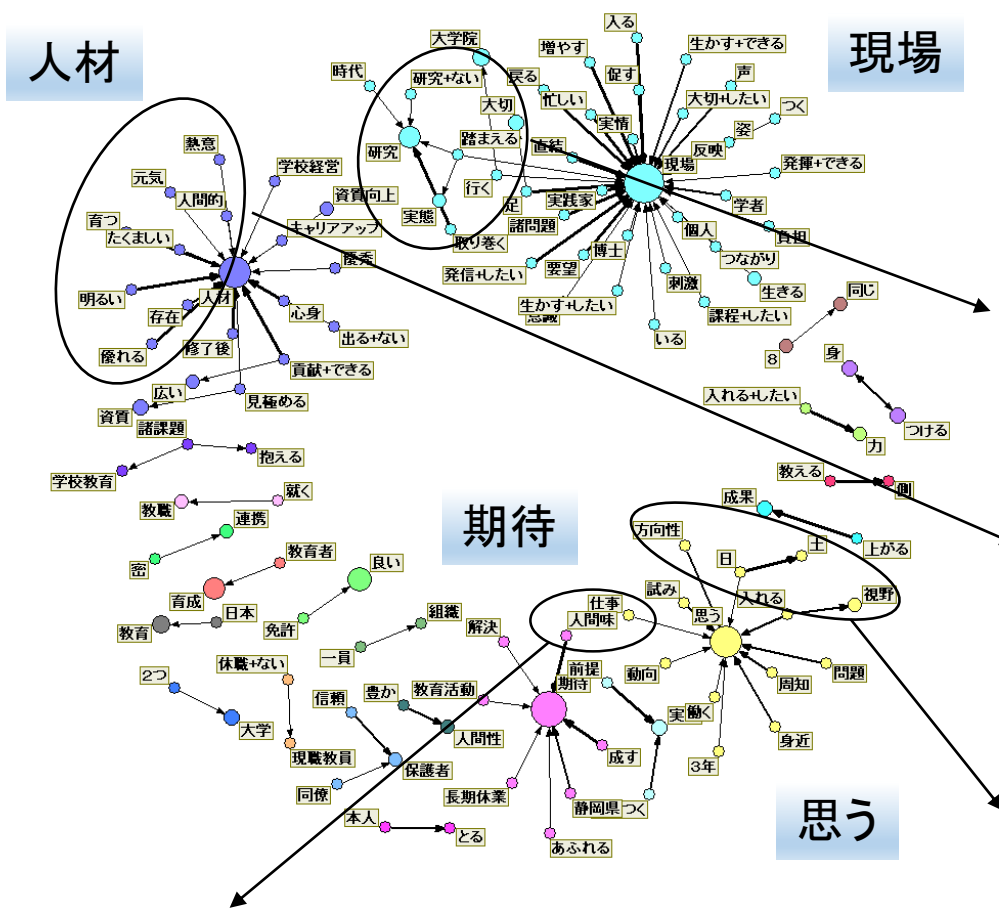
具体的な記述より

「現場で生きる力量形成」「現場を変革できる研究」「現場との連携を重視する」
「高度な理論を現場に生かす」等



即戦力となるリーダー育成への期待が高いことがわかる。

⑤ーⅡ ことばネットワーク (出現回数3回以上、最大100ルールの共起関係を図示)



結論単語頻度
 「現場」・・・285回、「期待」・・・240回
 「人材」・・・212回、「思う」・・・204回

・「現場」では「実態」「踏まえる」「研究」につながっている。

・「人材」では「熱意」「たくましい」「明るい」「人間的」につながっている。

・「思う」では「方向性」「視野」「入れる」につながっている。

・「期待」では「人間味」とのつながりがあり、原文では「レベルアップ」「質の向上」とのつながりがあった。

まとめ

- ①・②の分析より

管理職層の教員養成高度化には、マネジメント力を高める研修や行政、法規に関すること、視野を広げるための自己研鑽が役に立つと考えている。

- ③の分析より

経験段階に応じたスキルアップのために外部機関と連携した研修システムを構築する必要性を感じている。

- ④の分析より

副校長、教頭が現場での経験を重視しているのに対し、校長は資質能力の向上や教員養成の視点から教員養成の高度化を好意的に捉えている。

- ⑤の分析より

博士課程については今後の方向性を踏まえつつ、現場の実態に即した研究を行い、人間的な魅力のある人材育成を期待している。

参考文献

- 中央教育審議会「これからの学校教育を担う教員の資質能力向上について(答申)」平成27年12月21日
- 中央教育審議会初等中等教育分科会 学校における働き方改革特別部会「学校における働き方改革に係る緊急提言」平成29年8月29日
- 今津孝次郎『教師が育つ条件』岩波新書
- 中原淳、日本教育研究イノベーションセンター『アクティブラーナーを育てる高校』学事出版
- 静岡県教育委員会『静岡県教職員研修指針』平成23年3月